

文部科学大臣賞（個人）受賞者及び指導教員のコメント

受賞者：山越康生氏（平成 28 年度教育学研究科修了生、現群馬県立前橋高等学校教諭）

平成 27、28 年度に現職教員として大学院で研修をさせていただいた山越です。

今回、受賞した作品「算数・数学計算サイト MathCal」は大学院で学んだことを現場に還元したいという思いで作成しました。その作品が評価されたことは本当に嬉しく思います。

また、大学院の授業以外に、数学科研修院でも多くの先生方にご意見を頂くことができました。

多くの人に支えられて受賞した作品でもあります。本当にありがとうございました。

指導教員：大竹公一郎氏（群馬大学名誉教授）

山越君がデジタル教材のコンクールで文部科学大臣賞を受賞することになったと本人から連絡を頂き、率直にうれしく思い、祝意を伝えました。

山越君は、学部生と時からプログラミングに興味を持っていました。

大学を卒業し、教員になってからは忙しくてプログラミングに没頭することができませんでした。しかし、2 年前現職教員として大学院修士課程に入学し、私に付くことになりました。2 人とも PHP（WEB 開発で使用されるスクリプト言語）は初めてだったので、PHP サーバーのインストールから始めたのです。

私はもう覚えるのが辛かったので、殆ど山越君 1 人でプログラミングを行いました。

ともかく大学院でじっくり勉強できるのは、現職教員の場合 1 年しかないので、1 年間必至に頑張りました。コンテンツを作成するためには、プログラミングのスキルが必要なので、最初のうちは PHP を理解するのに時間を費やさなければなりません。その後、研究が自己満足で終わってしまっただけではつまらないし、一般に方々にも研究内容を理解してもらうことも必要だと意見し、研究授業を実施することを勧めました。

授業は反省すべき点が多々あったのですが、次につながるという確信は本人と私にありました。

この授業の成果については、群馬大学教育学部 附属学校教育臨床総合センターの研究紀要に掲載されています（下記アドレス）。

https://gair.media.gunma-u.ac.jp/dspace/bitstream/10087/10979/1/NO34_2017_03.pdf

2 年間という短い期間ではありましたが、良く頑張ったと思います。

私が指導した学生のうちで 1 番優秀であったし、1 番努力したと思います。

MathCal というサイトが受賞の対象ですが、私が 1 番評価しているコンテンツはケプラーの法則です。当サイトは GIF アニメしか載せていませんが、理論的な説明には本人の独創的なアイデアが含まれています。

当サイトは、新しいコンテンツを載せますますます充実したものになることを願っています。